

I. 調査のあらまし

1 . 調査の概要

(1) 調査の目的

平成 16 年 3 月に策定した県の総合計画「県民しあわせプラン」では、「みえけん愛を育む“しあわせ創造県”」をめざし、「県民が主役の県政」を推進することとしており、これを着実に推進するため、県民の県行政の各分野に対する満足意識等を把握し、県政運営に活用することを目的として調査を実施した。

なお、当アンケートは平成 10 年度から実施しており、今年度が 5 回目の調査となるが、今回から一部設問の表現を変更している。

(2) 調査の内容

調査の目的に合わせて、総合計画に掲げた施策の内容にできるだけ合致するように質問項目を設定し、それぞれについて県民から見た重要意識や満足意識を尋ねる設問（問 2）を中心にした。そのほか、附属調査として県の広聴・広報活動への関心に関する質問や県議会に関する質問を設定した。

三重県の住みやすさについての評価及び今後の定住意向（問 1 - 1、問 1 - 2）
県行政の各分野の取組についての重要意識、満足意識、認知意識（問 2）

（附属調査）

・ 広聴広報活動に関する質問（問 3 - 1 ~ 問 3 - 6）
・ 三重県議会に関する質問（問 4 - 1 ~ 問 4 - 3）

(3) 調査の設計

調査地域 三重県全域

調査対象 県内居住の 20 歳以上の男女

標本数 10,000 人

抽出方法 無作為抽出法

9 つの生活創造圏ごとに原則として 1,111 サンプル（四日市については 1,112）を配分し、各圏域内の市町村別に選挙人名簿登録者数の比率によってサンプル数を割り当てた。さらに各市町村においては選挙人名簿を使用して等間隔無作為抽出法によって対象者を抽出した。

表1 調査地域区分と標本数

生活創造圏	市町村名	圏別標本数
桑名・員弁	桑名市、いなべ市、多度町、長島町、木曾岬町、東員町	1,111
四日市	四日市市、菰野町、楠町、朝日町、川越町	1,112
鈴鹿・亀山	鈴鹿市、亀山市、関町	1,111
伊賀	上野市、名張市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町	1,111
津・久居	津市、久居市、河芸町、芸濃町、美里村、安濃町、香良洲町、一志町、白山町、嬉野町、美杉村	1,111
松阪・紀勢	松阪市、三雲町、飯南町、飯高町、多気町、明和町、大台町、勢和村、宮川村、大宮町、紀勢町、大内山村	1,111
伊勢志摩	伊勢市、鳥羽市、玉城町、二見町、小俣町、南勢町、南島町、御園村、度会町、浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町	1,111
尾鷲	尾鷲市、紀伊長島町、海山町	1,111
熊野	熊野市、御浜町、紀宝町、紀和町、鵜殿村	1,111
合 計		10,000

注1) 各生活創造圏の境界は明確にされていないが、市町村別の標本抽出のため、便宜上、表1のように市町村単位で各生活創造圏に区分した。(平成10年度、平成12年度、平成14年度、平成15年度と同様の区分である。)

注2) 市町村名は平成16年5月現在

調査主体 三重県総合企画局政策推進室

調査委託機関 株式会社サーベイリサーチセンター名古屋事務所

調査方法 郵送法
(三重県総合企画局政策推進室及び委託機関の連名による郵送)

調査時期 平成16年5月

2 . 回収の結果

標本数	10,000 人 (100.0%)	実回収総数	3,944 人 (39.4%)
		有効回収数	3,784 人 (37.8%)
		無効数	160 人 (1.6%) 回答不備等

3 . 集計における回収数の補正

調査対象の抽出にあたって、各生活創造圏ごとの分析検討を行う際に必要なデータを得るため、9つの生活創造圏の母集団（選挙人名簿登録者数）の大小に関わらず、1,111人ずつ（四日市生活創造圏は1,112人）のサンプルを割り当てた。

しかし、県全体の集計分析を回収実数のまま行くと、母集団の小さい圏域の調査結果が全体の結果に反映しすぎることになる。

そこで、圏域別の回収構成比を各圏域の母集団数構成比に近づけるため、平成16年6月現在の選挙人名簿登録者数の最も少ない熊野生活創造圏を1.00として、次の補正値を乗じて補正回収数とした。

表2 補正回収数の算出

生活創造圏	標本数	回収数	補正値	補正回収数	構成比
桑名・員弁	1,111	427	4.57	1,951	11.4%
四日市	1,112	391	7.67	2,999	17.5%
鈴鹿・亀山	1,111	446	4.98	2,221	13.0%
伊賀	1,111	451	3.97	1,790	10.5%
津・久居	1,111	457	6.59	3,012	17.6%
松阪・紀勢	1,111	465	4.58	2,130	12.4%
伊勢志摩	1,111	387	5.80	2,245	13.1%
尾鷲	1,111	357	1.01	361	2.1%
熊野	1,111	403	1.00	403	2.4%
圏域合計	10,000	3,784	-	17,111	100.0%

注) 補正回収数は、回収数に補正値を乗じたものを四捨五入している。そのため、各圏域の補正回収数を足し合わせたものと圏域合計値があわないことがある。

4 . 調査回答者の属性

回答者の属性別の補正回収数は以下のとおりである。

表3 年齢層別補正回収数

年齢層	補正回収数	構成比
20歳代	1,745	10.2%
30歳代	2,348	13.7%
40歳代	2,743	16.0%
50歳代	4,288	25.1%
60歳代	3,628	21.2%
70歳以上	2,357	13.8%
無回答	2	0.0%
全 体	17,111	100.0%

表4 性別補正回収数

性 別	補正回収数	構成比
男性	8,017	46.9%
女性	9,072	53.0%
無回答	23	0.1%
全 体	17,111	100.0%

表5 同居家族別補正回収数（複数回答）

同居家族	補正回収数	構成比
乳幼児	2,073	12.1%
小・中学生	2,814	16.4%
高校・大学生（各種学校含む）	2,708	15.8%
65歳以上の方	7,209	42.1%
無回答（上に該当しない人も含む）	6,132	35.8%
全 体	20,936	122.2%

表6 県外在住経験別補正回収数

県外在住経験	補正回収数	構成比
ない	7,756	45.3%
ある（通算5年未満）	3,418	20.0%
ある（通算5年以上）	4,632	27.1%
無回答	1,306	7.6%
全 体	17,111	100.0%

表7 居住年数別補正回収数

居住年数	補正回収数	構成比
1年未満	283	1.7%
1年以上5年未満	1,282	7.5%
5年以上10年未満	1,191	7.0%
10年以上	12,961	75.7%
無回答	1,394	8.1%
全 体	17,111	100.0%

表8 従事職業の産業・業種別補正回収数

従事職業の産業・業種	補正回収数	構成比
農林漁業	791	4.6%
製造業	3,525	20.6%
商業・金融業・サービス業	4,285	25.0%
建設業・不動産業	966	5.6%
医療・福祉関係	933	5.5%
教育・保育関係	802	4.7%
公務員（教育・保育関係を除く）	1,115	6.5%
学生	186	1.1%
無職（定年退職者を除く）	2,041	11.9%
フリーター	150	0.9%
その他	482	2.8%
無回答	1,836	10.7%
全 体	17,111	100.0%

5 . 報告書の見方

- (1) 比率はすべてパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したため、パーセントの合計が100%にならないこともある。
- (2) 複数回答が可能な質問では、比率算出の基数は回答者数（票数）とし、その項目を選び印をつけた人が全体からみて何%なのかという見方をした。そのため、各項目の比率を合計しても100%とはならない。
- (3) 本報告書の表の見出し及び文章中での回答選択肢の表現は、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載されている場合がある。

6 . 標本誤差について

アンケート調査を行う場合、一般的にその母集団（フレーム）が2万人以上の集団であるとき、統計上母集団を無限母集団としてとらえるため、2,000件程度を対象とすれば母集団全体の意見を反映していると考えられる。今回の調査では、母集団は2万人以上の無限母集団となっており、対象者数1万人、回収数約4,000件は調査結果を見るうえで、統計上有効な数値であると考えられる。但し、調査結果には標本誤差というものが生じる。

標本誤差	$\sigma = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100 - P)}{n}}$	P: 回答率(%)	n:回収数(人)
------	--	-----------	----------

今回の調査では上記の式で標本誤差を求めることができる。そしてこの標本誤差が、データの信頼度を表しているといえる。

標本誤差とは

母集団から一部の標本を抽出して調査を行い、その結果からもとの全体の値を推定するのが標本調査であるが、この際に生ずる“標本調査の結果”と“全数調査の結果”との差が標本誤差である。標本誤差の幅は、回答者数(n)、および回答率(P)によって決定される。

標本誤差について例を挙げると、「回収数が17,111人であり、ある設問のある選択肢の回答率が50%であった場合、その回答率の誤差の範囲は最高で±0.8%であり、実際の回答率は49.2~50.8%の範囲にある」と意味づけられる。上式からも、標本誤差は回収数が多いほど小さくなることがわかる。

各属性の標本誤差を下表に示す。回収数は補正回収数を用いている。

属 性		回収数n (人)	回答率P (%)										
			5又 は95	10又 は90	15又 は85	20又 は80	25又 は75	30又 は70	35又 は65	40又 は60	45又 は55	50	
総 数		17,111	0.3	0.5	0.5	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	0.8	0.8
年 齢 層	2 0 歳 代	1,745	1.0	1.4	1.7	1.9	2.1	2.2	2.3	2.3	2.4	2.4	
	3 0 歳 代	2,348	0.9	1.2	1.5	1.7	1.8	1.9	2.0	2.0	2.1	2.1	
	4 0 歳 代	2,743	0.8	1.1	1.4	1.5	1.7	1.7	1.8	1.9	1.9	1.9	
	5 0 歳 代	4,288	0.7	0.9	1.1	1.2	1.3	1.4	1.5	1.5	1.5	1.5	
	6 0 歳 代	3,628	0.7	1.0	1.2	1.3	1.4	1.5	1.6	1.6	1.7	1.7	
	7 0 歳 以 上	2,357	0.9	1.2	1.5	1.6	1.8	1.9	2.0	2.0	2.0	2.1	
生 活 創 造 圏	桑 名 ・ 員 弁	1,951	1.0	1.4	1.6	1.8	2.0	2.1	2.2	2.2	2.3	2.3	
	四 日 市	2,999	0.8	1.1	1.3	1.5	1.6	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	
	鈴 鹿 ・ 亀 山	2,221	0.9	1.3	1.5	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.1	2.1	
	伊 賀	1,790	1.0	1.4	1.7	1.9	2.0	2.2	2.3	2.3	2.4	2.4	
	津 ・ 久 居	3,012	0.8	1.1	1.3	1.5	1.6	1.7	1.7	1.8	1.8	1.8	
	松 阪 ・ 紀 勢	2,130	0.9	1.3	1.5	1.7	1.9	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2	
	伊 勢 志 摩	2,245	0.9	1.3	1.5	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.1	2.1	
	尾 鷲	361	2.3	3.2	3.8	4.2	4.6	4.8	5.0	5.2	5.2	5.3	
	熊 野	403	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0	

